

処理汚染水の海洋放出に反対！

～復興の妨げをするな～

原発と気候危機を考える粕江の会

政府は漁業関係者の理解を得ないまま、処理汚染水の海洋放出を決定、8月24日から放出を始めました。私たちは直ちに放出を停止するよう求めます。

A L P S 処理汚染水の海洋放出に反対する理由

○試験操業から本格操業に必死の努力で復興させてきた漁業に壊滅的な打撃を与えます。

○政府・東電は漁業者との約束を守れ。

2015年8月、何度も嘘をつかれてきた漁業者の申入れに、政府・東電は「関係者との理解なしにはいかなる処分も行わず、多核種除去設備で処理した水は発電所敷地内のタンクに貯留いたします」と回答しています。

○多くの国民は圧倒的に海洋放出に反対しています。福島県漁連を初め、全国漁業協同組合、各県・市の漁

連は反対、福島県内の農業組合など関係する多くの団体、7割を超える福島の自治体の反対・慎重の意見書が提出されています。公聴会では発言した44人中42人が反対・慎重意見、公開された4千件を超えるパブコメの75%が反対です。

○放射性核種トリチウムの安全性はいまだ研究段階で、「安全」とは証明されていません。

魚介類を通した濃縮問題や、DNAに取り込まれた時など、もっと調査する必要がある、人体に及ぼす影響の体系的な研究は不十分です。

○海洋放出以外の別の方法が提案されています。

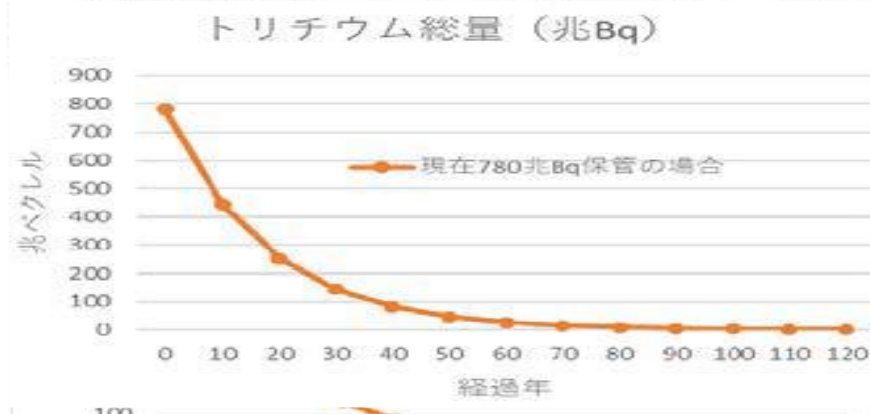
・石油備蓄で使われている大型タンク（現在のタンク容量の100倍）
・モルタル固化案

海洋放出ありきで、全く議論されていません。

○汚染水の責任を漁業者・地元民に押し付けるな！

解決に向けた選択肢(1)大型タンクによる長期保管

- 保存期間中の放射能減衰（半減期 = 12.3年）
- 石油備蓄に多くの実績を有する堅牢さ



減衰の例



10万m³原油タンク
(82mΦ x 22.5mH)

解決に向けた選択肢(2)モルタル固化による永久処分

米国サバンナリバー核施設(SC州、廃止措置中)にて実施中の低レベル廃液モルタル固化施設の例
(DOE向けSavanna River Site廃液処理プロジェクト報告No.21、2019.1.31より)



- 汚染水をセメント、砂と共にモルタル化し、コンクリートタンクの中に流し込み、固化する。
- 写真は、2018年10月に完成した大型コンクリートタンク、容量: 124,000m³

- 半永久的に放射性物質の海洋流出リスクを遮断できる
- 保存期間中のトリチウム減衰
- 汎用土木技術で可
- 原発の低レベル廃棄物処理にすでに適用

